

令和 5 年度青森県内の消費生活相談状況のポイント

【相談全体に関して】

- 令和 5 年度の消費生活相談件数は計 8,006 件 で、前年度と比較して 81 件の増加（増加率 1.0%）となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 714 件 で、前年度と比較し 5 件の増加（増加率 0.7%）です。これは、投資詐欺等の相談が増加していることが主な要因となっています。

【特徴・変化】

① 高齢者からの相談件数

- ・ 65 歳以上の高齢者からの相談件数 2,867 件（前年度比+110 件、増加率 4.0%）
- ・ 相談全体に占める割合 35.8%（← 前年度 34.8%）

② 各年代の相談状況

- 20 代・50 代・60 代・70 代以上は増加し、特に 20 代の増加率が大きい
- ・ 20 歳未満からの相談件数 190 件（前年度比▲19 件、減少率 9.1%）
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（オンラインゲームや出会い系サイトなど）
 - ・ 20 代からの相談件数 632 件（前年度比+62 件、増加率 10.9%）
件数が多い相談：保健・福祉サービス（脱毛エステ、医療サービスなど）
 - ・ 30 代からの相談件数 614 件（前年度比▲63 件、減少率 9.3%）
件数が多い相談：商品一般（不審な電話、架空請求、フィッシング詐欺など）
 - ・ 40 代からの相談件数 937 件（前年度比▲107 件、減少率 10.2%）
件数が多い相談：金融・保険サービス（フリーローン・サラ金、投資詐欺など）
 - ・ 50 代からの相談件数 1,328 件（前年度比+20 件、増加率 1.5%）
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品の定期購入など）
 - ・ 60 代からの相談件数 1,477 件（前年度比+37 件、増加率 2.6%）
件数が多い相談：商品一般（不審な電話、架空請求、フィッシング詐欺など）
 - ・ 70 代以上からの相談件数 2,143 件（前年度比+114 件、増加率 5.6%）
件数が多い相談：運輸・通信サービス（光回線、固定電話など）

③ 投資詐欺に関する相談が増加

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 714 件（前年度比+5 件、増加率 0.7%）
- ・ 相談全体に占める特殊詐欺の割合 8.9%（← 前年度 8.9%）
- ・ 特殊詐欺のうち、投資詐欺相談件数 156 件（前年度比+55 件、増加率 54.5%）

④ 定期購入に関する相談が減少

- ・ 定期購入（健康食品・化粧品等） 802 件（前年度比▲69 件、減少率 7.9%）

⑤ 火災保険申請代行に関する相談が急増

- ・ 火災保険申請代行 151 件（前年度比+102 件、増加率 208.2%）

⑥ 副業に関する相談が増加

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等） 220 件（前年度比+23 件、増加率 11.7%）

令和5年度青森県内の消費生活相談状況

1 相談状況

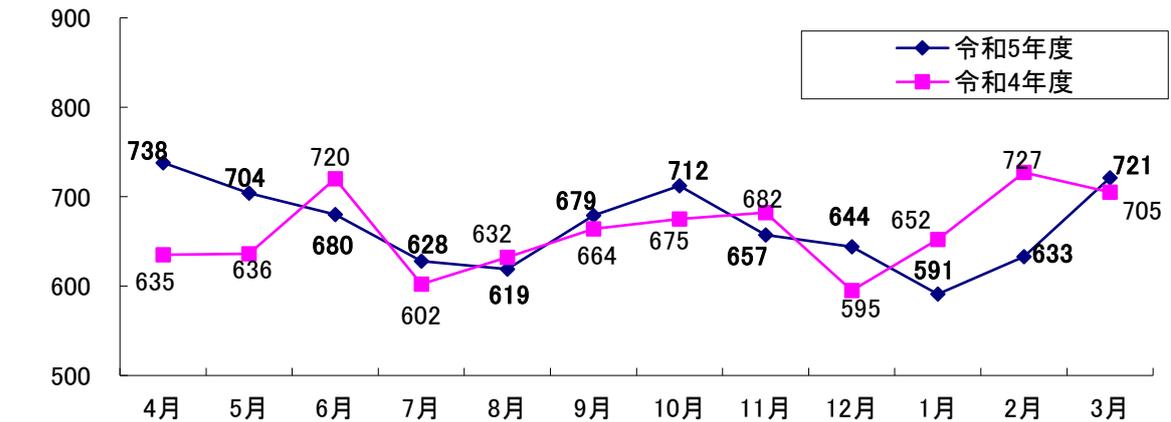
(1) 概況

令和5年度に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、8,006件（苦情相談6,807件、問合せ1,199件）であり、前年度と比較して81件（1.0%）増加しています。

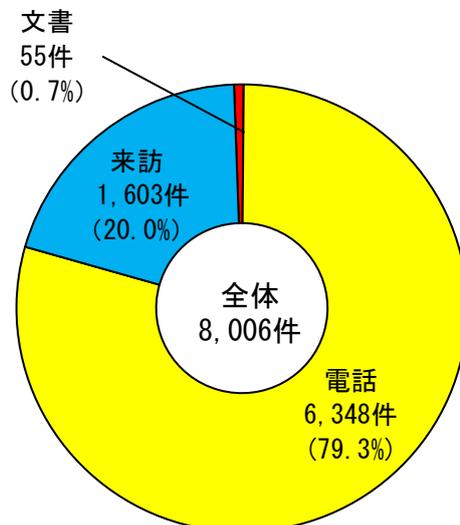
（単位：件）

項目	年度	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
苦情		6,807	6,551	256	103.9%
問合せ		1,199	1,373	▲174	87.3%
要望		0	1	▲1	-
計		8,006	7,925	81	101.0%

〔月別相談受付件数〕



〔相談受付方法〕

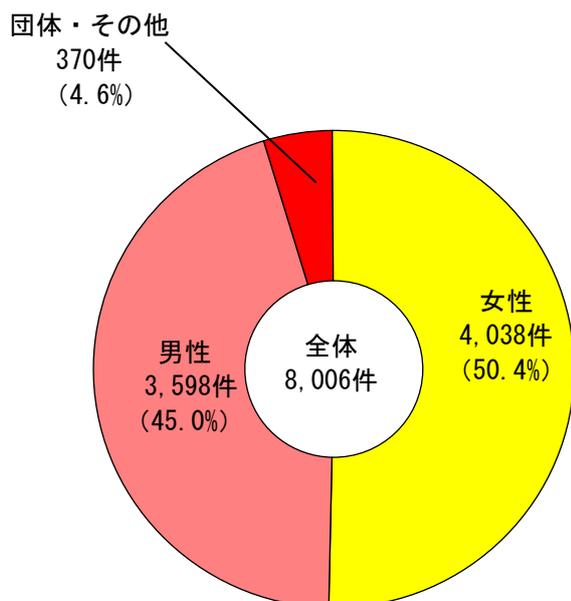


(2) 契約当事者の状況

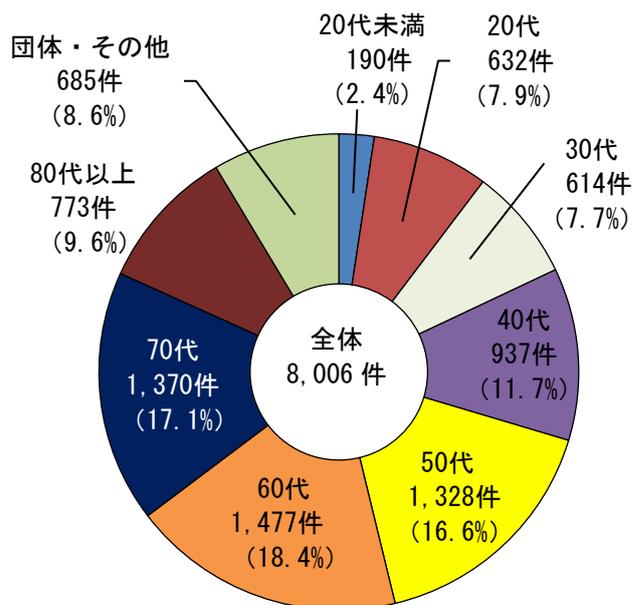
契約当事者を性別でみると、女性が4,038件で、全体の50.4%を占めています。年代別では、60代が1,477件(18.4%)と最も多く、次いで70代が1,370件(17.1%)となっています。

また、契約当事者を職業別でみると、無職が3,101件(38.7%)と最も多く、次いで給与生活者が2,937件(36.7%)となっています。

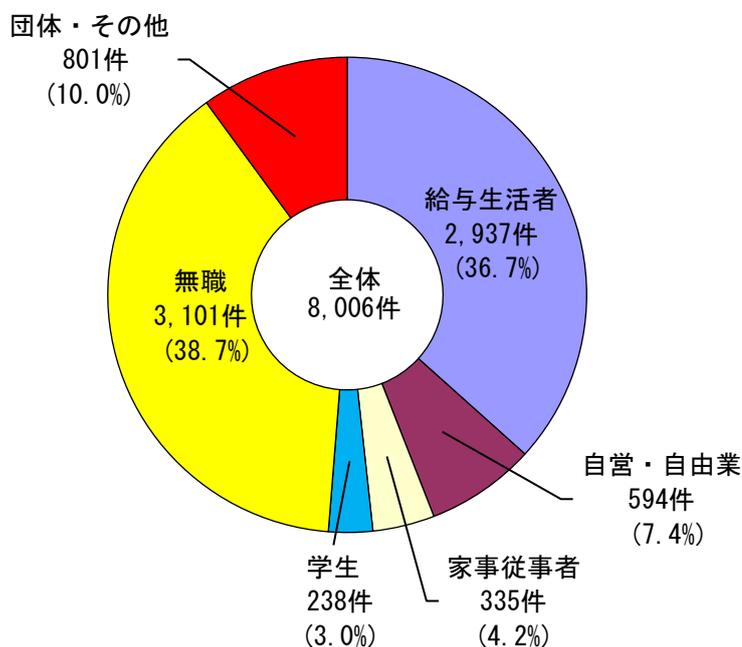
〔契約当事者の性別〕



〔契約当事者の年代〕



〔契約当事者の職業〕



(3) 主な商品・役務別の相談状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
1	商品一般	968	916	52	105.7%
2	金融・保険サービス	778	712	66	109.3%
3	運輸・通信サービス	752	511	241	147.2%
4	保健衛生品	707	807	▲100	87.6%
5	他の役務	630	504	126	125.0%
	その他	4,171	4,475	▲304	93.2%
	計	8,006	7,925	81	101.0%

※商品・役務別の詳細はP18 商品・役務別内訳表参照

1 「商品一般」

令和5年度の相談件数は968件で、前年度より52件(5.7%)増加しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品を特定できない相談が分類されます。また、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求や、宅配業者の不在通知を装った不審なSMS、個人情報聞き出そうとする不審な電話に関する相談などが含まれています。

2 「金融・保険サービス」

令和5年度の相談件数は778件で、前年度より66件(9.3%)増加しています。借金の返済が困難になったという多重債務に関する相談のほか、クレジットカードの解約手続きに関する相談がありました。また、暗号資産やFXなどの投資トラブルに関する相談もここに分類され、増加傾向が見られました。

3 「運輸・通信サービス」

令和5年度の相談件数は752件で、前年度より241件(47.2%)増加しています。光回線などのインターネット接続回線に関する相談が279件と最も多くなっています。また、「あと2時間でこの電話が使えなくなります」という音声ガイダンスが流れる不審な電話などが急増し、固定電話に関する相談も169件となりました。固定電話に関する相談では、大手電話会社に電話回線の契約を解約しようと電話をかけても電話が繋がらないという相談も多数ありました。

4 「保健衛生品」

令和5年度の相談件数は707件で、前年度より100件(12.4%)減少しています。そのうち、500件(全体の70.7%)が定期購入に関する相談で、前年度の602件から102件(16.9%)の減少となりました。これまで増加の一途だった保健衛生品の相談が減少したことの大きな要因になっています。

5 「他の役務」

令和5年度の相談件数は630件で、前年度より126件(25.0%)増加しています。火災保険を使って住宅の修理をしないかと勧誘する火災保険申請代行の相談のほか、パソコン等がウイルスに感染したように偽の警告を出して、有料のウイルス駆除の依頼をするよう仕向けるサポート詐欺などの相談が増加しました。

(4) 契約当事者年代別商品・役務相談状況（上位3位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位3位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満では、オンラインゲーム等の教養・娯楽サービスが1位になっています。20代では保健・福祉サービスが1位になっています。これは脱毛エステや医療サービスなどが主となっています。

30代、60代、その他の1位は商品一般で、不審な電話や架空請求、フィッシング詐欺などの不審なメールに関する相談があります。40代の1位は、金融・保険サービスで、借金に関する相談や、暗号資産やFXなどの投資トラブルが含まれています。50代の1位は保健衛生品で、化粧品等の定期購入に関する相談が多くなっています。70代以上の1位は運輸・通信サービスで、光回線や固定電話に関する相談が多くなっています。

(単位：件)

	1		2		3	
20代未満	教養・娯楽サービス	71	保健衛生品	19	被服品	16
20代	保健・福祉サービス	92	金融・保険サービス	90	教養・娯楽サービス	77
30代	商品一般	72	金融・保険サービス	72	運輸・通信サービス	53
40代	金融・保険サービス	114	商品一般	96	保健衛生品	76
50代	保健衛生品	175	商品一般	149	金融・保険サービス	130
60代	商品一般	188	保健衛生品	169	運輸・通信サービス	136
70代以上	運輸・通信サービス	284	商品一般	268	食料品	218
その他	商品一般	139	他の役務	70	金融・保険サービス	66

(5) 相談に係る契約等の既払金額

令和5年度の相談受付件数に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数は増加していますが、既払金額合計、平均既払金額、最大既払金額は減少しました。

	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	1,956人	1,904人	52人	102.7%
既払金額合計	909,864千円	976,389千円	▲66,525千円	93.2%
平均既払金額（一人当たり）	465千円	513千円	▲48千円	90.6%
最大既払金額	36,000千円	100,000千円	▲64,000千円	36.0%

2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

(1) 概況

令和5年度の特種詐欺に関する相談件数は714件で、前年度より5件(0.7%)増加しています。類型別の増加率でみると、パソコン等のウイルス感染の偽警告(59.5%)、出会い系サイト・アプリ(57.1%)、FX・暗号資産などの投資詐欺(54.5%)が高くなっており、特種詐欺の相談が増加したことの主要因となっています。

(単位：件)

類 型	年 度	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
振り込め詐欺		205	198	7	103.5%
架空請求詐欺		190	138	52	137.7%
還付金詐欺		14	58	▲44	24.1%
融資保証金詐欺		1	0	1	-
オレオレ詐欺		0	2	▲2	-
フィッシング詐欺		176	209	▲33	84.2%
F X・暗号資産などの投資詐欺		156	101	55	154.5%
ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）		59	37	22	159.5%
ワンクリック詐欺		45	89	▲44	50.6%
出会い系サイト・アプリ		44	28	16	157.1%
老人ホームの入居権詐欺		29	47	▲18	61.7%
合 計		714	709	5	100.7%

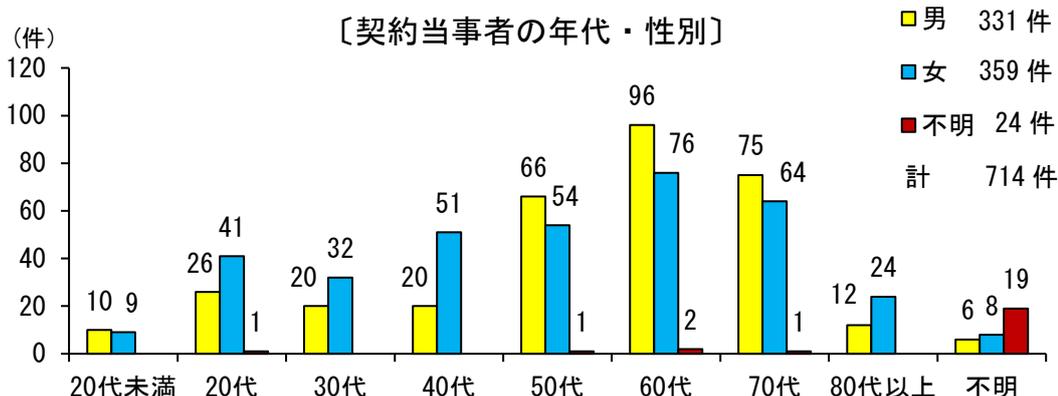
なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応状況は以下のとおりです。

(参考) 主な商品・役務別分類 (P18) との対応状況

類 型	主な商品・役務名
振り込め詐欺	
架空請求詐欺	商品一般、教養・娯楽サービス
還付金詐欺	保健・福祉サービス
融資保証金詐欺	金融・保険サービス
オレオレ詐欺	他の相談
フィッシング詐欺	商品一般
F X・暗号資産などの投資詐欺	金融・保険サービス
ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）	他の役務
ワンクリック詐欺	教養・娯楽サービス
出会い系サイト・アプリ	教養・娯楽サービス
老人ホームの入居権詐欺	保健・福祉サービス

(2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和5年度における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別で見ると、60代男性の96件が最も多く、次いで60代女性の76件、70代男性の75件となっています。



(3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和5年度の特殊詐欺に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額の合計、平均既払金額、最大既払金額のすべてが増加しています。

	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	146人	109人	37人	133.9%
既払金額合計	247,098千円	130,809千円	116,289千円	188.9%
平均既払金額(一人当たり)	1,692千円	1,200千円	492千円	141.0%
最大既払金額	30,000千円	27,000千円	3,000千円	111.1%

3 相談全般における特徴

(1) 定期購入に関する相談が減少

定期購入に関する相談は802件で、前年度より69件減少しました。SNSなどで格安の化粧品や健康食品の広告を見て購入申し込みをしたが、その後、定期購入だったことがわかり、2回目以降の解約をしたいという相談のほか、テレビショッピングで健康食品を注文した際、定期購入を勧められてはっきり断ったにも関わらず、届いた商品は定期購入になっていたという問題のある販売手法に関する相談が増えました。

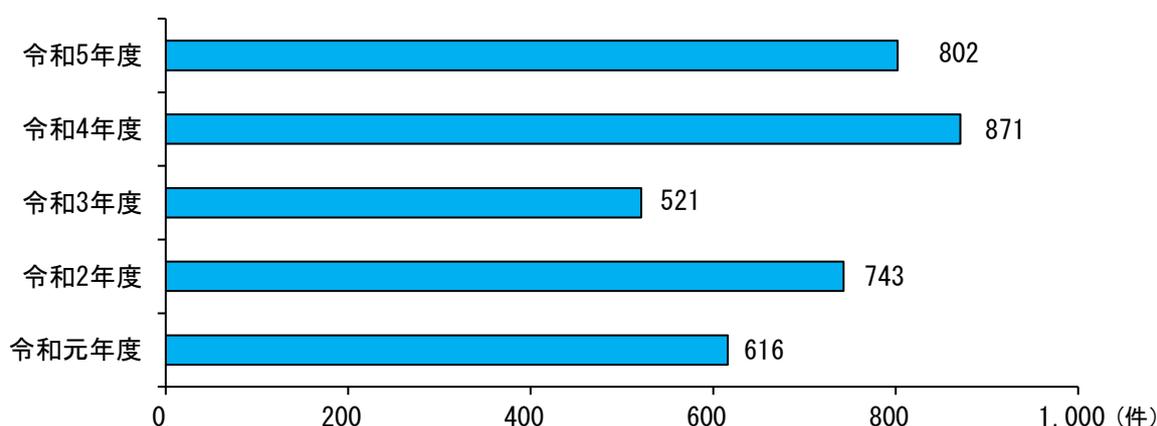
令和5年度は、化粧品が最も多く458件(全体の57.1%)、次いで健康食品の216件(全体の26.9%)となっています。

(単位：件)

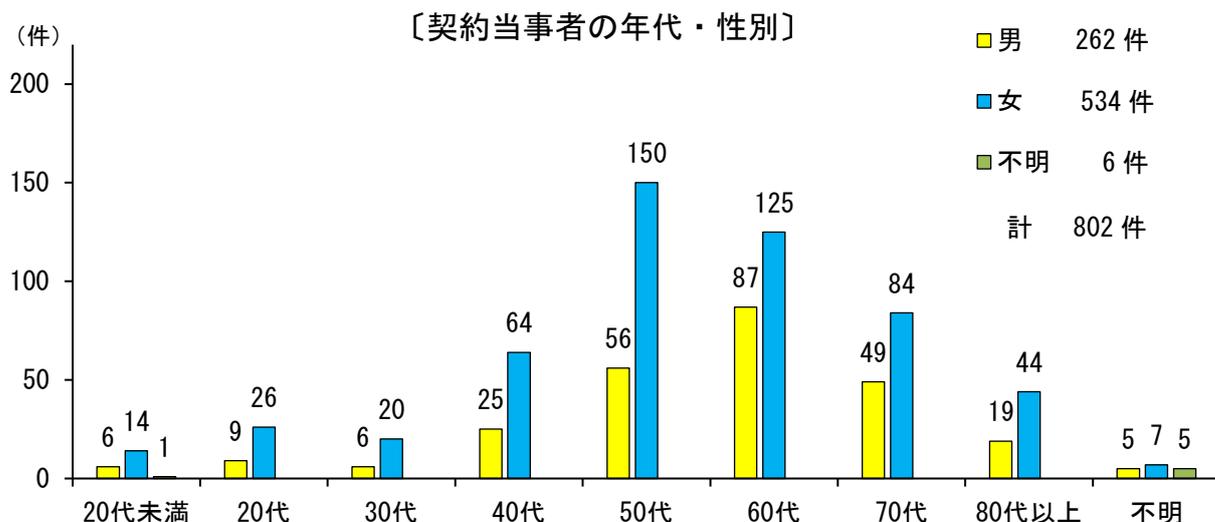
商品・役務名	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
化粧品	458	582	▲124	78.7%
健康食品	216	201	15	107.5%
他の教養娯楽品	50	25	25	200.0%
その他	78	63	15	123.8%
計	802	871	▲69	92.1%

過去5年間の相談件数の推移を見ると、相談件数は高止まりしているように見受けられます。

〔定期購入に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別で見ると、50代の女性が150件で最も多く、次いで60代の女性の125件となっています。性別では女性が男性の約2倍となっています。



(2) 火災保険申請代行に関する相談が急増

火災保険を使って住宅の修理をしないかと火災保険の申請代行を持ちかける業者に関する相談が151件で、前年度より102件(308.2%)増加しました。

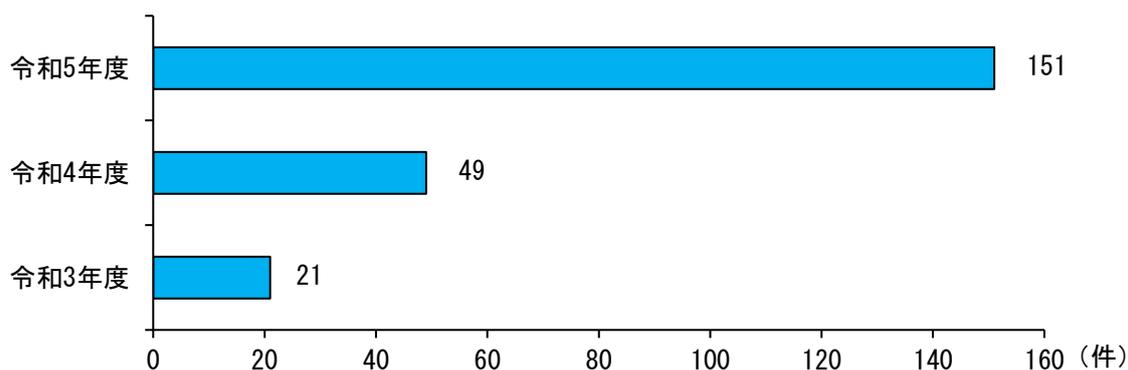
自然損耗や経年劣化による損壊は、火災保険の支払い対象外であるにも関わらず、災害で壊れたことにより保険金を請求するよう仕向けたり、支払われた保険金の50%前後の高額な報酬や解約料を請求するなど、問題の多い勧誘が行われていました。

(単位：件)

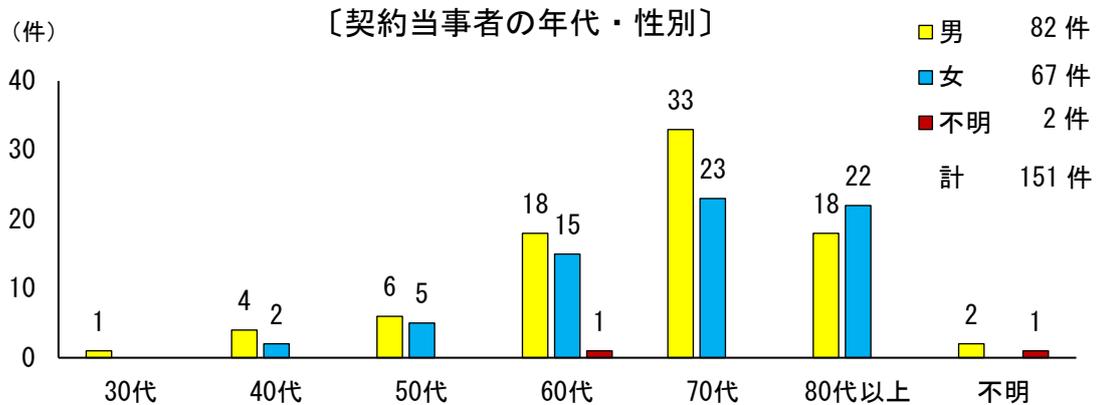
	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
火災保険申請代行に関する相談	151	49	102	308.2%

年度別の相談件数の推移を見ると、令和5年度の増加の様子がはっきりとわかります。火災保険申請代行の相談が入るようになったのは、令和3年度以降で、令和2年度以前の相談はなく、新しい手口と言えます。

〔火災保険申請代行に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別で見ると、70代男性が33件で最も多く、次いで70代女性の23件となっています。70代以上が96件で全体の63.6%を占めており、在宅率が高いこと、古い住宅に住んでいることで高齢者が狙われている可能性が高いと思われます。



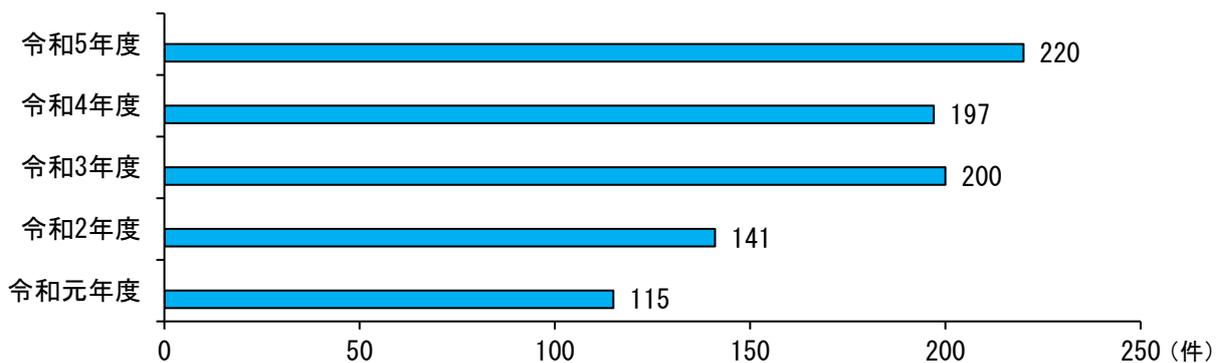
(3) 副業に関する相談が増加

副業に関する相談は、220件で前年度より23件（11.7%）増加しました。

（単位：件）

	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
副業に関する相談	220	197	23	111.7%

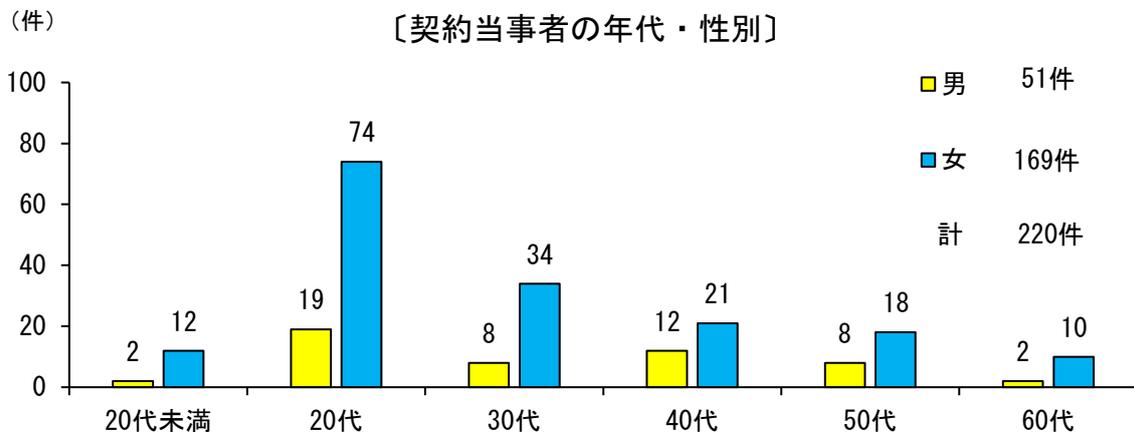
〔副業に関する相談件数の推移〕



副業に関する相談における既払金額を見ると、最大既払金額は減少しているものの、お金を支払った人の数、既払金額の合計、平均既払金額が増加しており、被害が深刻化していることがわかります。

	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	110人	107人	3人	102.8%
既払金額合計	93,694千円	75,323千円	18,371千円	124.4%
平均既払金額（一人当たり）	852千円	704千円	148千円	121.0%
最大既払金額	5,700千円	15,500千円	▲9,800千円	36.8%

契約当事者の年代・性別で見ると、20代女性の74件が最も多く、次いで30代女性の34件となっています。20代以下が全体の48.6%を占め、社会経験の乏しい若年層の相談が多い傾向が見られます。また、女性の相談が男性の相談の3倍を超えていることも大きな特徴です。

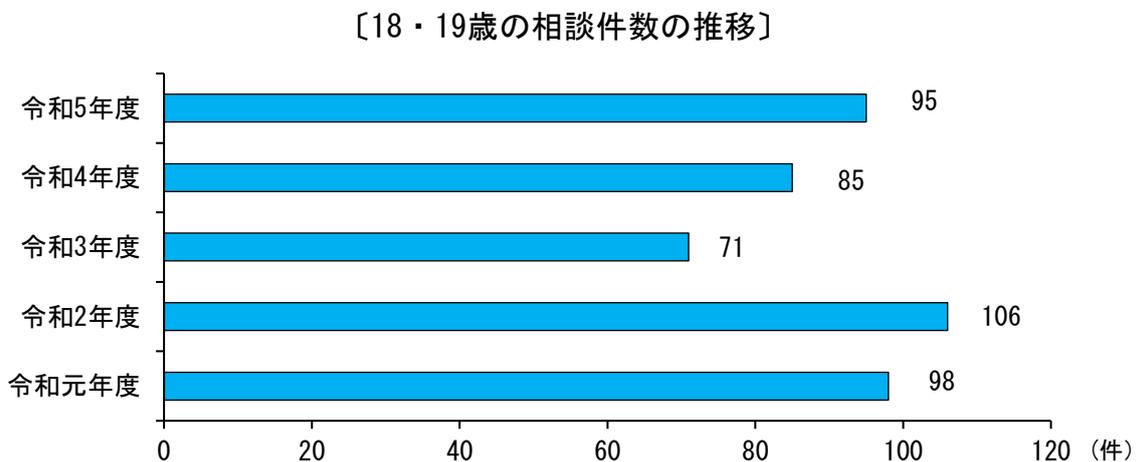


4 18歳・19歳の相談状況

(1) 概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により契約の取消しが可能だった、18歳、19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談状況に注目しました。

過去5年間の18歳、19歳の相談を見ると、令和3年度にいったん減少したものの、令和4年度以降は増加傾向にあることがわかります。



(2) 主な商品・役務別の相談状況

令和5年度の相談件数は95件で前年度より10件(11.8%)増加しています。商品・役務別では、出会い系サイトやインターネットゲームを含む教養・娯楽サービスに関する相談が22件で最も多くなっています。

最も高額な支払いとなったのは、出会い系サイトで知り合った女性と会うため、言われるがままに60万円を支払った事例です。支払ったお金は後で返金すると言われ、それを信用して複数回に渡り支払っていました。

(単位：件)

	商品・役務名	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
1	教養・娯楽サービス	22	18	4	122.2%
2	被服品	10	8	2	125.0%
	保健・福祉サービス	10	9	1	111.1%
4	商品一般	8	5	3	160.0%
	レンタル・リース・貸借	8	4	4	200.0%
	その他	37	41	▲4	90.2%
	計	95	85	10	111.8%

5 65歳以上の高齢者の状況

(1) 全般

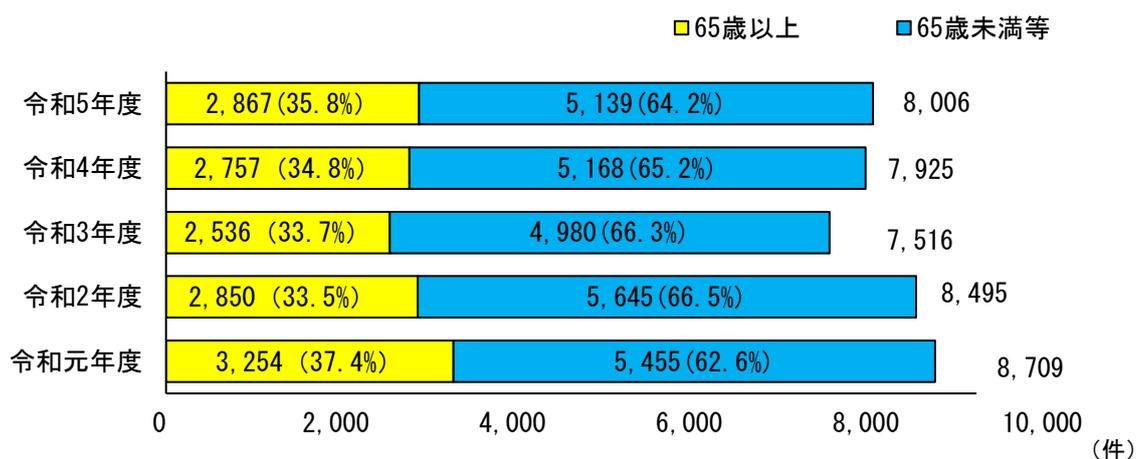
① 高齢者の概況

高齢者の相談は2,867件で、前年度と比較して110件(4.0%)増加しています。相談全体に占める割合は35.8%と、前年度の34.8%から1.0ポイント増加し、依然として3割以上を占めています。

(単位：件)

項目	年度	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
苦情		2,356	2,178	178	108.2%
問合せ		511	579	▲68	88.3%
計		2,867	2,757	110	104.0%

[高齢者が占める割合と相談件数の推移]



② 高齢者の主な商品・役務別の相談状況

高齢者の相談では、商品一般に関する相談が362件と最も多くなりましたが、前年度より23件(6.0%)減少しています。

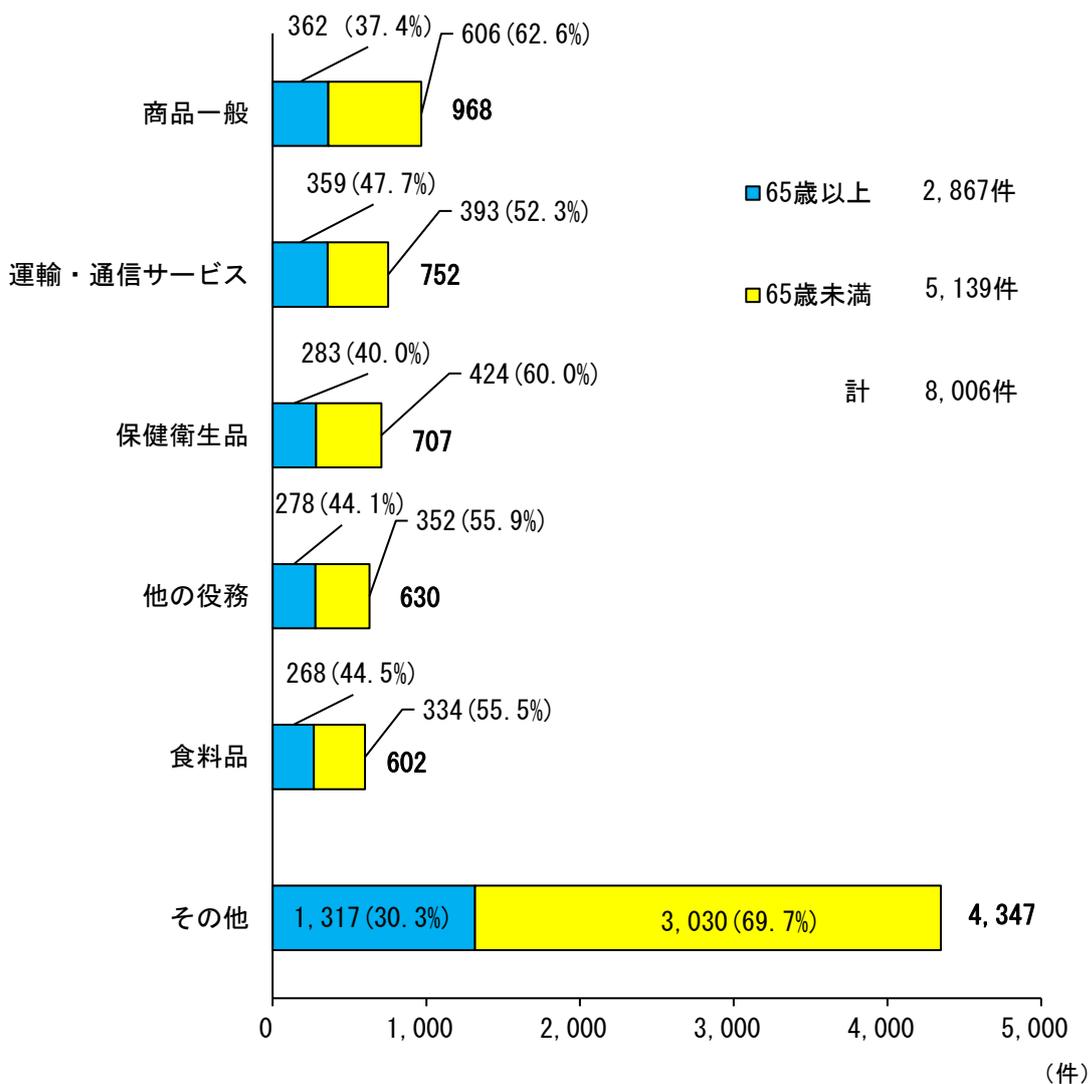
次いで相談件数が多いのは、運輸・通信サービスの359件で、前年度より139件(63.2%)増加しています。光回線の電話勧誘や、「2時間後に電話が使えなくなる」という不審電話に関する相談が増加したことが要因となっています。

(単位：件)

	商品・役務名	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
1	商品一般	362	385	▲23	94.0%
2	運輸・通信サービス	359	220	139	163.2%
3	保健衛生品	283	231	52	122.5%
4	他の役務	278	204	74	136.3%
5	食料品	268	263	5	101.9%
	その他	1,317	1,454	▲137	90.6%
	計	2,867	2,757	110	104.0%

主な商品・役務別に高齢者の割合をみると、運輸・通信サービスに関する相談が47.7%と最も高く、次いで、食料品に関する相談が、44.5%となっています。

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕



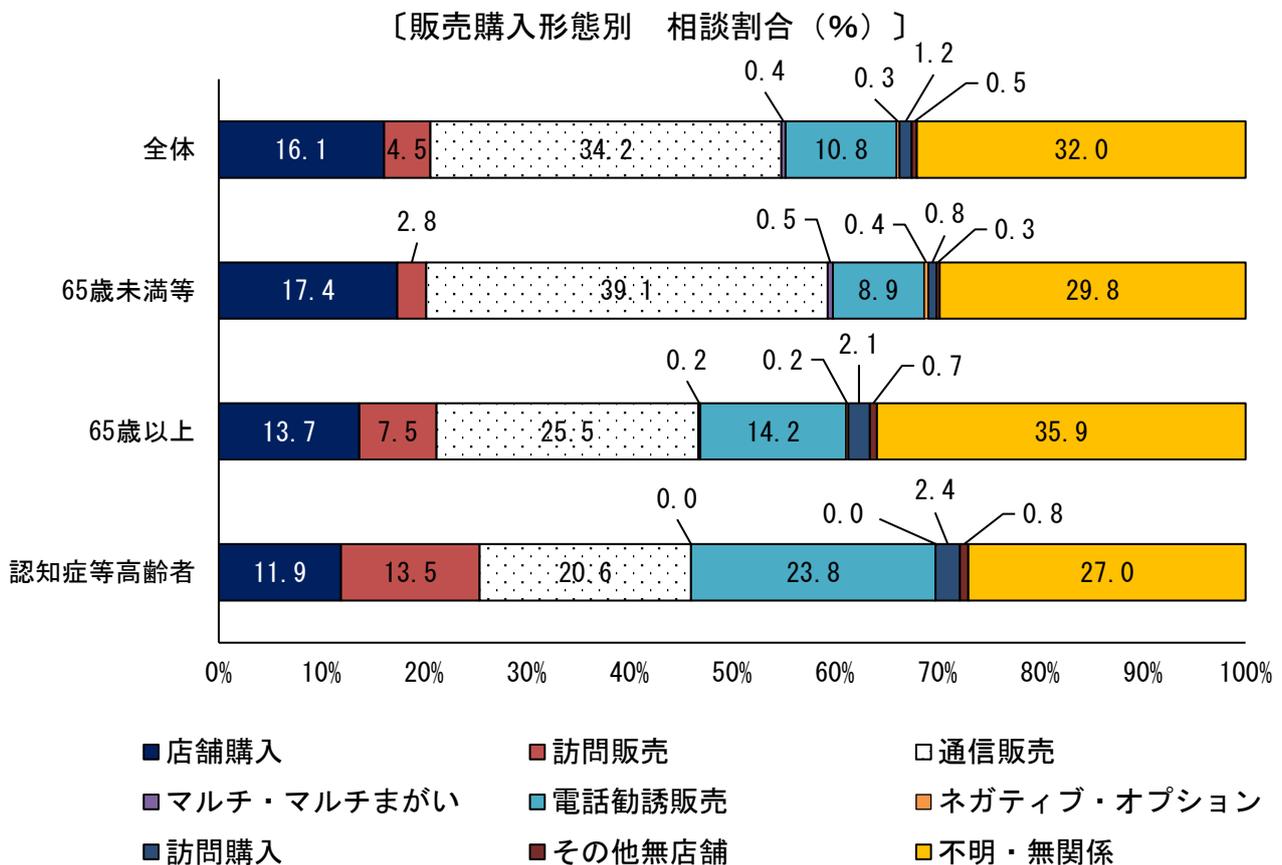
③高齢者の相談に係る契約等の既払金額

高齢者の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数は増加しましたが、既払金額合計、平均既払金額、最大既払金額とも減少しています。

	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	571人	495人	76人	115.4%
既払金額合計	382,142千円	452,793千円	▲70,651千円	84.4%
平均既払金額(一人当たり)	669千円	915千円	▲246千円	73.1%
最大既払金額	36,000千円	100,000千円	▲64,000千円	36.0%

④販売購入形態別相談割合

販売購入形態別で見ると、65歳以上では、65歳未満と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。



(2) 高齢者の特殊詐欺の状況

①概況

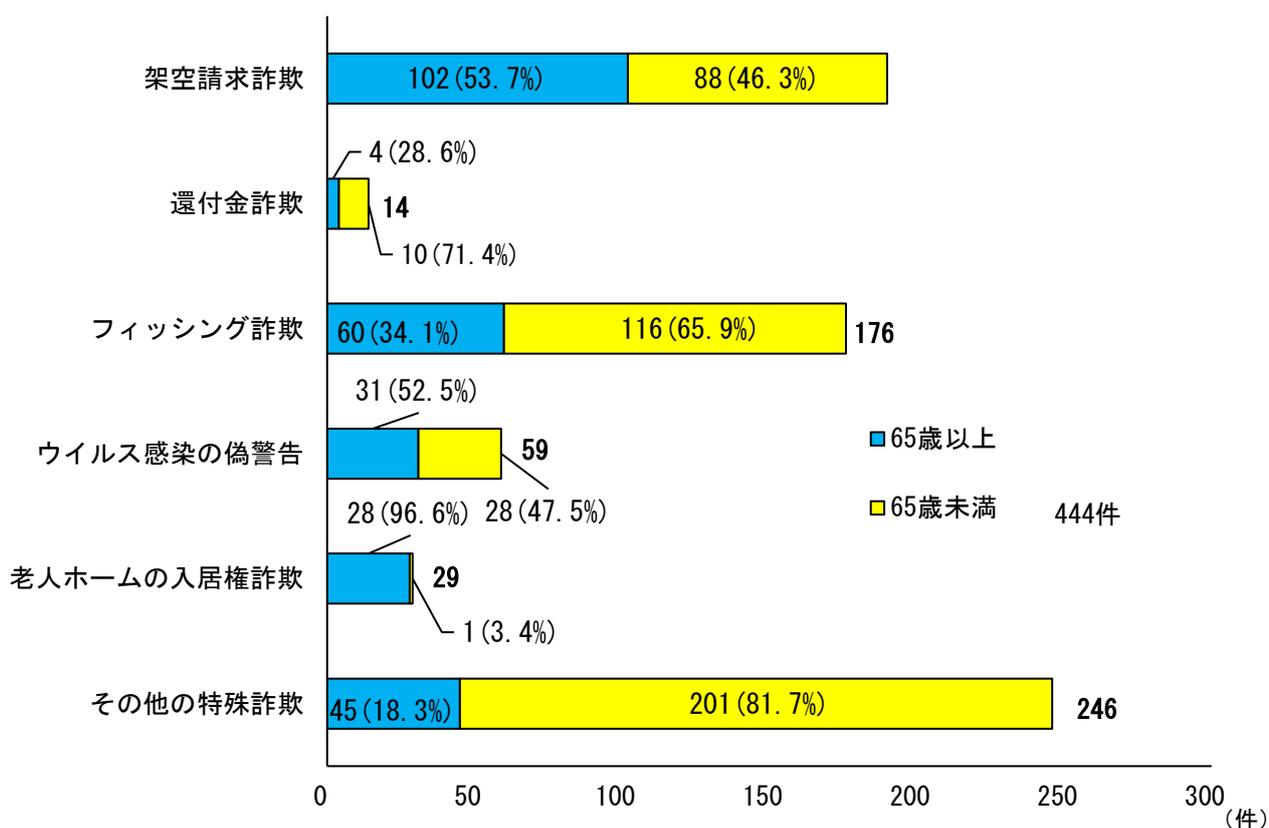
高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は270件で、前年度より36件(11.8%)減少しています。類型別にみると、振り込め詐欺が106件(全体の39.3%)と最も多く、次いでフィッシング詐欺の60件(全体の22.2%)となっています。

(単位：件)

類 型	年 度	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
振り込み詐欺		106	117	▲11	90.6%
架空請求詐欺		102	80	22	127.5%
還付金詐欺		4	35	▲31	11.4%
融資保証金詐欺		0	0	-	-
オレオレ詐欺		0	2	▲2	-
フィッシング詐欺		60	76	▲16	78.9%
ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）		31	21	10	147.6%
F X、暗号資産などの投資詐欺		29	11	18	263.6%
老人ホームの入居権詐欺		28	45	▲17	62.2%
ワンクリック詐欺		13	32	▲19	40.6%
出会い系サイト・アプリ		3	4	▲1	75.0%
合 計		270	306	▲36	88.2%

②特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

高齢者の特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、老人ホームの入居権詐欺が96.6%と最も多く、次いで、架空請求詐欺に関する相談の割合が53.7%となっています。これまで、高齢者の占める割合が高かった還付金詐欺が、28.6%と大幅に減少しています。



③高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談件数に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数、既払金額合計、平均既払金額、最大既払金額とも大きく増加しています。

	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	30人	25人	5人	120.0%
既払金額合計	109,947千円	38,223千円	71,724千円	287.6%
平均既払金額(一人当たり)	3,665千円	1,529千円	2,136千円	239.7%
最大既払金額	30,000千円	12,000千円	18,000千円	250.0%

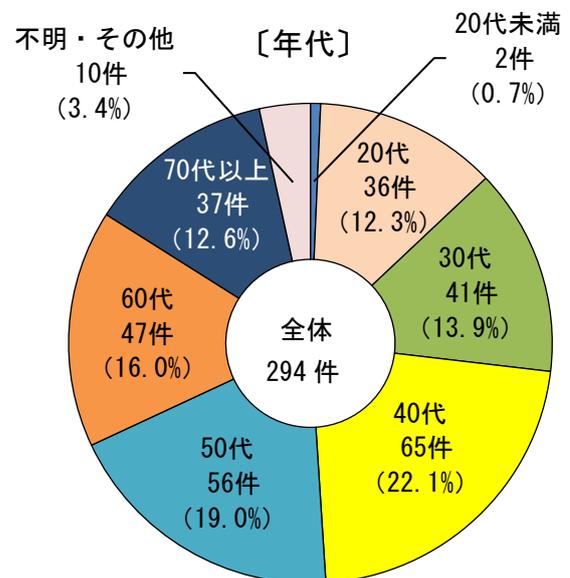
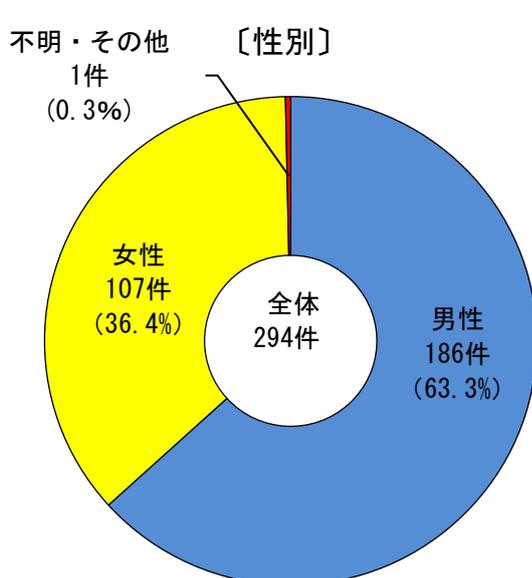
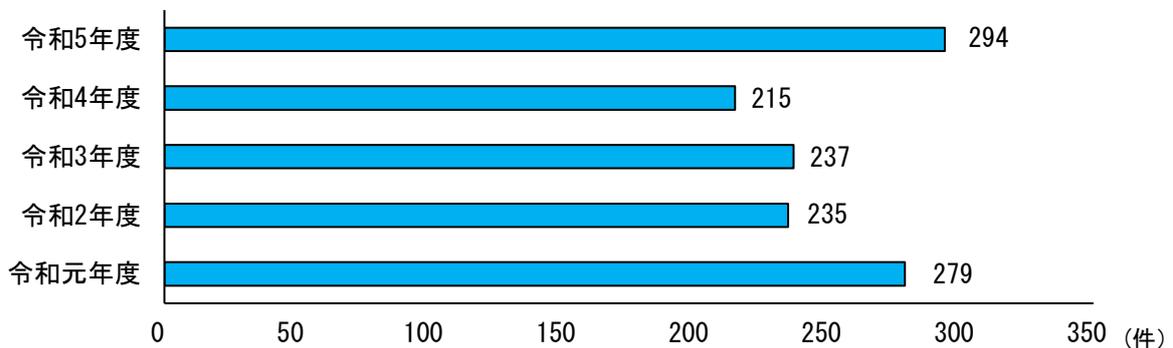
6 多重債務に関する相談状況

令和5年度における多重債務に関する相談件数は294件で前年度より79件(36.7%)増加しています。

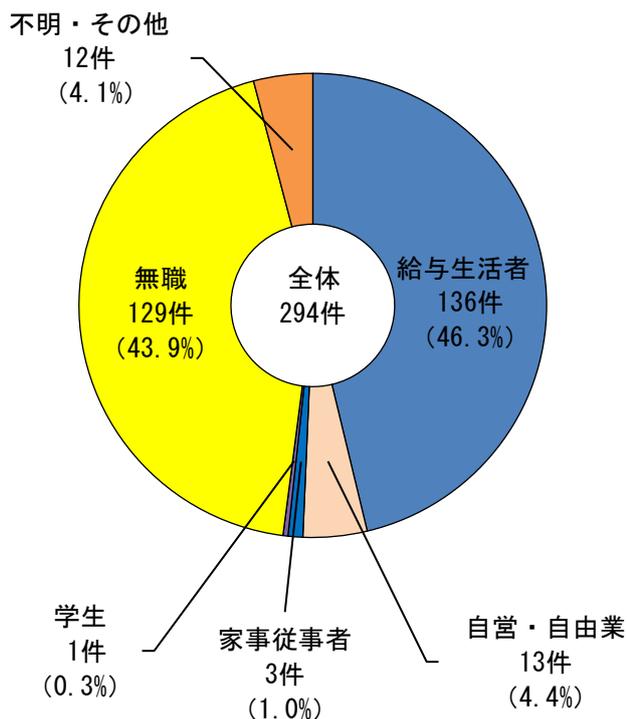
(単位：件)

	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
相談件数	294	215	79	136.7%

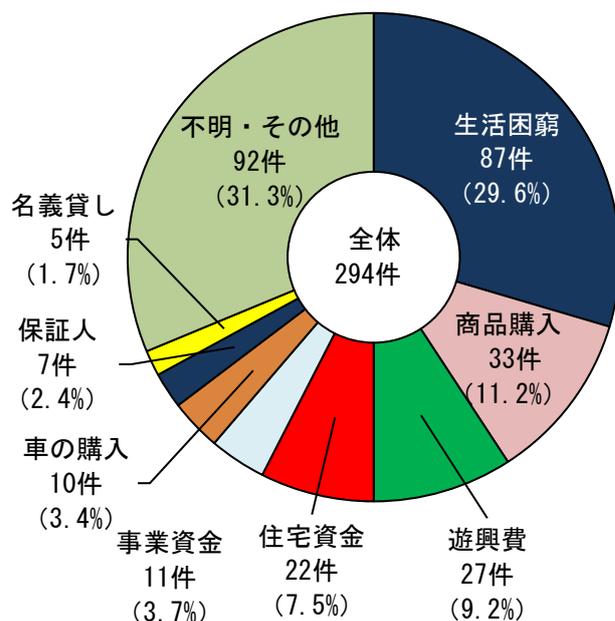
〔多重債務相談件数の推移〕



〔契約当事者職業〕



〔借金のきっかけ〕



7 ヤミ金などの相談状況

令和5年度におけるヤミ金などに関する相談件数は17件で、前年度より2件（13.3%）増加しています。

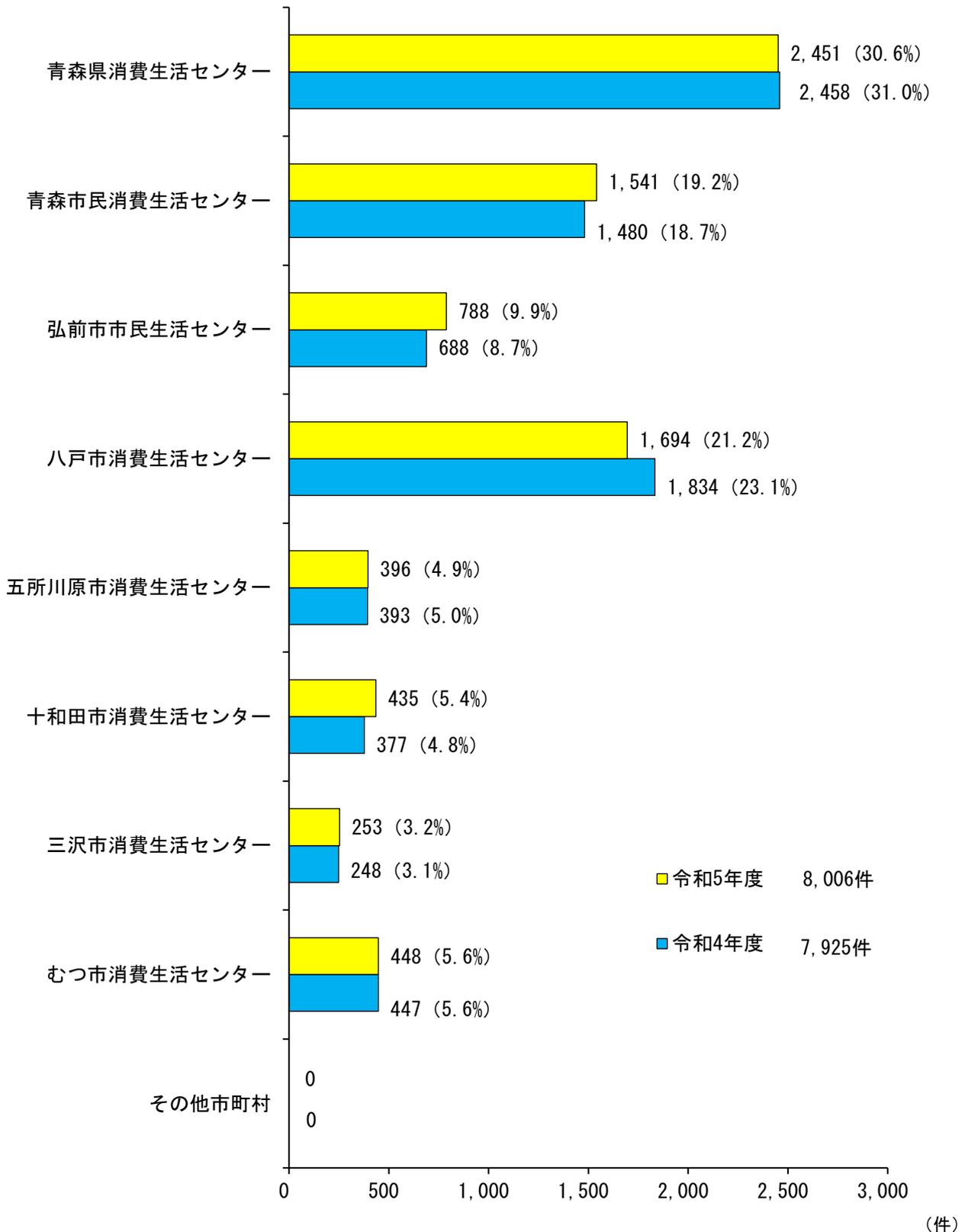
（単位：件）

	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
ヤミ金	14	15	▲1	93.3%
融資保証金詐欺	1	0	1	-
借金整理屋	1	0	1	-
ショッピング枠現金化	1	0	1	-
計	17	15	2	113.3%



8 相談関係資料

(1) 機関別相談受付状況



(2) 商品・役務別相談内訳

(単位：件)

		令和5年度		令和4年度	増減
			構成比 (%)		
商 品	商品一般	968	12.1	916	52
	食料品	602	7.5	621	▲19
	住居品	245	3.0	301	▲56
	光熱水品	178	2.2	160	18
	被服品	342	4.3	410	▲68
	保健衛生品	707	8.8	807	▲100
	教養娯楽品	489	6.1	533	▲44
	車両・乗り物	221	2.8	207	14
	土地・建物・設備	160	2.0	136	24
	他の商品	30	0.4	15	15
	小計	3,942	49.2	4,106	▲164
役 務	クリーニング	35	0.4	26	9
	レンタル・リース・貸借	300	3.8	286	14
	工事・建築・加工	166	2.1	183	▲17
	修理・補修	104	1.3	100	4
	管理・保管	4	0.0	6	▲2
	役務一般	84	1.1	83	1
	金融・保険サービス	778	9.7	712	66
	運輸・通信サービス	752	9.4	511	241
	教育サービス	23	0.3	18	5
	教養・娯楽サービス	517	6.5	600	▲83
	保健・福祉サービス	290	3.6	343	▲53
	他の役務	630	7.9	504	126
	内職・副業・相場	74	0.9	67	7
	他の行政サービス	51	0.6	80	▲29
小計	3,808	47.6	3,519	289	
他の相談	256	3.2	300	▲44	
合計	8,006	100.0	7,925	81	

商品 相談 のもの	<ul style="list-style-type: none"> ① 商品一般（商品を特定できないもの） ② 保健衛生品（化粧品、医薬品、医療用具） ③ 食料品（健康食品、魚介類、飲料） ④ 教養娯楽品（他の教養娯楽品、電話機・電話機用品、音響・映像製品） ⑤ 被服品（紳士・婦人洋服、履物、アクセサリ）
役務 相談 のもの	<ul style="list-style-type: none"> ① 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービス） ② 運輸・通信サービス（インターネット通信サービス、移動通信サービス） ③ 他の役務（役務その他、冠婚葬祭、外食・食事宅配） ④ 教養・娯楽サービス（他の教養・娯楽、娯楽等情報配信サービス） ⑤ レンタル・リース・貸借（不動産貸借、レンタルサービス）

(3) 相談者居住市町村別相談受付状況

市町村別	件数				市町村別	件数			
	5年度	1,000人 当たり相談数	4年度	増減		5年度	1,000人 当たり相談数	4年度	増減
青森市	2,511	9.6	2,392	119	鶴田町	55	4.9	55	0
弘前市	823	5.2	819	4	中泊町	45	5.2	40	5
八戸市	1,622	7.6	1,711	▲89	野辺地町	61	5.4	55	6
黒石市	129	4.3	132	▲3	七戸町	68	5.0	52	16
五所川原市	318	6.6	310	8	六戸町	68	6.7	45	23
十和田市	415	7.2	405	10	横浜町	12	3.0	25	▲13
三沢市	203	5.4	203	0	東北町	59	3.8	66	▲7
むつ市	444	8.9	451	▲7	六ヶ所村	45	4.5	45	0
つがる市	118	4.1	121	▲3	おいらせ町	116	4.8	113	3
平川市	143	4.9	105	38	大間町	23	5.4	20	3
平内町	31	3.3	45	▲14	東通村	22	4.1	21	1
今別町	9	4.5	6	3	風間浦村	5	3.5	11	▲6
蓬田村	19	8.1	14	5	佐井村	3	2.0	11	▲8
外ヶ浜町	20	4.2	17	3	三戸町	28	3.4	50	▲22
鱒ヶ沢町	25	3.1	25	0	五戸町	53	3.6	68	▲15
深浦町	20	3.1	27	▲7	田子町	12	2.7	16	▲4
西目屋村	4	3.4	1	3	南部町	79	5.1	82	▲3
藤崎町	49	3.5	47	2	階上町	67	5.2	56	11
大鰐町	34	4.3	27	7	新郷村	6	3.1	8	▲2
田舎館村	26	3.8	39	▲13	県外・不明	164	—	149	15
板柳町	52	4.4	40	12	合計	8,006	—	7,925	81

※1,000人当たり相談数は令和6年4月1日現在の推計人口を基に算出